

## Reflection for Secure IT Windows サーバ 7.1 リリースノート

この度 Reflection for Secure IT (RSIT) バージョン 7.1 を国内リリースする運びとなりました。以下 RSIT Windows サーバの新機能について、その概要をご案内申し上げます。

### 記

#### 1. 対象製品

Reflection for Secure IT Windows サーバ バージョン 7.1

#### 2. バージョン 7.1 の主な新機能

- 1) sftp、scp によるファイルアクセス/操作許可を詳細に指定可
  - a) ファイルアクセス/操作許可として、{"Browse"、"Download"、"Upload"、"Delete"、"Rename"} を個別に指定可。
  - b) a) の内容をユーザ、グループ、ホスト単位の設定と組合せ、より詳細に管理することが可能。
- 2) "Reflection PKI Services Manager" を用いた外部 PKI 環境と連携した PKI 証明書認証。  
"Reflection PKI Services Manager" は、RSIT とは独立した無償プログラムで、RSIT Windows サーバ内に実装した "PKI Services Manager Client" からの要求に対し、外部認証局 (CA) 等と連携して確認結果を返します。  
詳細は下記参照。
  - Tech Note 2425 (英文) <<http://support.attachmate.com/techdocs/2425.html>>
  - User Guide (英文)  
<[http://docs.attachmate.com/reflection/PKI/1.0/en/pki\\_manager\\_user\\_guide.pdf](http://docs.attachmate.com/reflection/PKI/1.0/en/pki_manager_user_guide.pdf)>
- 3) 暗号化モジュールを更新し、共通鍵アルゴリズムとして aes(128/192/256) の CTR モードや、arcfour128/256 を追加し、メッセージ認証コード (MAC) アルゴリズムとして hmac-sha256 と hmac-sha512 を追加。更に、暗号化モジュールに関して米国標準技術局 (NIST) 暗号モジュール認定基準 FIPS 140-2 を再取得。
- 4) Microsoft 証明書ストアに対応。
- 5) デバッグログのタイムスタンプ表示に関し、地域標準時帯かグリニッジ標準 (UTC) 時帯かの選択が可能。

#### 3. バージョン 6.1 互換機能のサポート

バージョン 7.0 更新時に未サポートとなっていたバージョン 6.1 の機能に改めて対応しました。

- 1) SFTP、scp によるファイル転送において、途中中断後の再コマンド発行時に中断点からの再開機能をサポート。
- 2) SFTP、scp において、転送先に転送ファイルと同一内容/同一名称のファイルが存在する時に転送を省略する Smart Copy 機能をサポート。  
注記：ASCII モード転送時は、Smart Copy 機能は無効になります。
- 3) SFTP アクセス範囲 (accessible directories) 指定に、全物理ローカルドライブを仮想ルートにマッピングする "\$DRIVE" をサポート。
- 4) ユーザ認証として、PKI 証明書認証、RSA SecurID 認証、RADIUS 認証に対応。

#### 4. バージョン 7.1 の入手

1) ボリュームライセンス (VPA) 保守契約のお客様 :

お手元に控えのユーザ名とパスワードを使い 下記 Attachmate ダウンロードライブラリサイトにログイン後、対象ファイルをダウンロードし入手下さい。

<https://download.attachmate.co.jp/Login.aspx>

2) シングルパッケージ購入のお客様 ならびに 保守契約をされていないお客様 :

バージョンアップをご希望される場合、下記弊社お問合せ先までメール連絡をお願いします。

[j-info@attachmate.com](mailto:j-info@attachmate.com)

以上